

Experience 研修情報紹介

平成30年度良質な医師を育てる研修

国立病院機構では、毎年、多彩な内容で「良質な医師を育てる研修」を開催しています。豊富な経験を持つ先生方が講師を担当。実践的なスキルが身につく充実のプログラムを提供しています。今回は2018年12月に行われた「重心医療の現場・実践編」と、「救急初療診療能力パワーアップセミナー」をご紹介します。

「重心医療の現場・実践編」

重症心身障害医療は一般医療の延長線上では対応しがたい複雑な病態生理と合併症を呈するものです。また、障害の基礎疾患も多岐に渡り、年齢幅も極めて大きいという特徴もあります。

今回の研修では、重症心身障害医療の現場で実践されている最新の診断・治療、さらには福祉的知見を得ることを目的に企画しました。また、他病院の重症心身障害医療に携わる医師と情報・意見交換をすることで、日頃は所属病院の基準で行ってしまいがちな医療について、他病院の方法や標準を知り、知識のブラッシュアップや今後の改善に役立てることも狙っています。

重症心身障害医療の概説ならびに臨床上課題となる合併症、在宅支援の取り組み、感染症対策などを中心に、診断や治療に関して最新の知見や将来の見通しなどについても幅広く学べる密度の濃い研修です。さらに、口腔ケアや気道軟性内視鏡のハンズオンセミナーを実施。現場で役立つ実践的な内容が参加者に好評でした。

平成30年度 良質な医師を育てる研修
「重心医療の現場・実践編」

対 象：現在、重症心身障害児（者）医療に携わる医師
障害児（者）医療に関心がある医師（いずれも経験年数は問わず）

日 時：平成30年12月6日（木）～12月7日（金）

会 場：国立病院機構福岡病院

参加者：24名

■ 研修内容

1日目

オリエンテーション

講 演：新しい福祉社会づくりの拠点

実 習：気管支鏡のハンズオンセミナー

講義と実習：口腔ケア、接触咳下

講 演：「いのちの可能性」をつくりだしてきた重症心身障害児・福祉の実践と思想

2日目

講 演：重症心身障害児の脳を見て、良い脳機能を守り伸ばす

講 義：第三者後見人、金銭管理、医療における意思決定

講義と実習：スクンケア

講義と実習：呼吸リハビリ

ショートレクチャーとグループワーク

：重症心身障害児者病棟における感染制御

講 義：重症心身障害児（者）における外科治療

参加者の声

〈参加者の声 1〉

気管支鏡ハンズオンセミナーでは、所属病院ではあまり触れる機会のない気管支鏡を使用しながらご指導いただき、良い経験となりました。

〈参加者の声 2〉

実技の講習も多く、また普段自分が直接関わっていなかった領域も体験できて有意義でした。

〈参加者の声 3〉

各日の冒頭にあった2回のアイスブレイクと「重症心身障害児（者）病棟における感染制御」のショートレクチャー&グループワークに刺激を受けました。今後に役立てていきたいです。

〈参加者の声 4〉

「重症心身障害児医療・福祉の実践と思想」の講演が印象に残りました。患者さんの意思や周囲の思いや考え方を知り、見方が変わりました。

〈参加者の声 5〉

初心者の私でも有意義に過ごせた2日間でした。重心患者独特の注意点（リスク兆候）が確認できたので、現場でも留意していこうと思います。

〈参加者の声 6〉

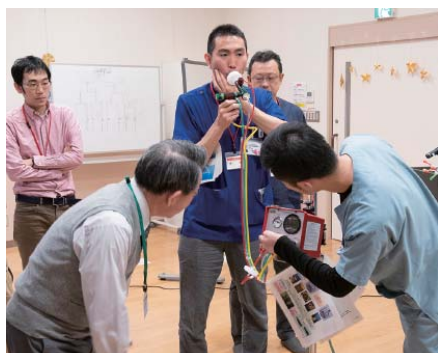
気管支鏡のハンズオンセミナー、呼吸リハビリなど、実習がたくさん盛り込まれた研修で日常にすぐに活かせるスキルを学ぶことができました。

〈参加者の声 7〉

気管支鏡を実際に操作させていただき、勉強になりました。様々な臓器のトラブルの対処法を知り、広く知識を得ることができました。

〈参加者の声 8〉

他施設で重心医療に携わっている方と意見交換ができてとても刺激になりました。病棟を見学させていただいたのも非常に良かったです。



「救急初療 診療能力パワーアップセミナー」

救急医療と災害医療は、国立病院機構が担う5事業のうちの2つです。地域における医療に貢献するためには欠かせない領域といえるでしょう。

今回の研修では、研修医・専修医・若手医師を対象に、救急初療におけるスキルを高めるためのプログラムを企画しました。救命救急センターに勤務する医師による災害時における机上シミュレーションをはじめ、外傷の初療実習・研修コースであるPTLS (Primary-Care Trauma Life Support) を含む実践的な研修です。

特にPTLSに関しては、概要を学ぶ時間もしっかりとり、その後、少人数のグループに分かれて実習とフィードバックを行う形式を取りました。トータルに学ぶ機会が少ない手技の研修も盛り込み、初療に関する診療能力の向上を狙っています。自分の手を動かしながら学ぶ参加型のセミナーで、それぞれが熱心に取り組んでくれました。

平成30年度 良質な医師を育てる研修

「救急初療 診療能力パワーアップセミナー」

対 象：①初期研修医および後期研修医
②卒後10年程度の医師

日 時：平成30年12月14日(金)～12月15日(土)

会 場：国立病院機構北海道医療センター附属札幌看護学校

参加者：24名

■ 研修内容

1日目

午 前：オリエンテーション

PTLS (Primary-care Trauma Life Support)

● 初期評価のデモンストレーション①

● プライマリーサーベイ

● セカンダリーサーベイとPan-scan (頭頸部)

● セカンダリーサーベイとPan-scan (体幹部)

● 初期評価のデモンストレーション②

午 後：PTLS少人数グループ別の実習とフィードバック (スキル・ステーション)

● st1 Primary Survey・FASTと骨盤簡易固定

● st2 単純X線

● st3 穿刺術

● st4 全身CT

2日目

午 前：PTLS少人数グループ別の実習とフィードバック (シナリオ・ステーション)

PTLS修了式

講義：内因性救急(AMLS)総論

午 後：講義：災害時の病院対応

参加者の声

〈参加者の声 1〉

外傷についての初療に自信が持てるような内容で、とても有意義でした。特に実際に体を動かして多くの経験ができたのが良かったです。

〈参加者の声 2〉

先生方のご指導のもと、様々な手技を学んだり、ロールプレイができたりして非常に実践的なセミナーでした。勉強になりました。

〈参加者の声 3〉

災害時における病院対応については考えたことがありませんでした。万一の時にどうするべきかを具体的に学ぶ、とても勉強になりました。

〈参加者の声 4〉

PTLSに関して、最初に座学で復習をしてから実技に移るという流れが良かったです。少人数のグループだったのでじっくり実習ができました。

〈参加者の声 5〉

シミュレーション形式でPTLSのprimary、secondaryについて学ぶことができました。救急初療についての理解が深まりました。

〈参加者の声 6〉

日々の当直でなんとなくやっていたことを系統立てて学習できたので、今後は不安なくやっているとしたいと思います。教室の前でやってくださった救急の劇はリアルで印象深かったです。

〈参加者の声 7〉

普段あまり関わることのないPTLS講習が具体的にシミュレーションできました。密度の濃いセミナーが受けられ、参加して大正解でした。

〈参加者の声 8〉

鼠径ヘルニアの解剖が苦手でしたが、ファントックモデルや講義を受けたことで、少し自信ができました。看護師と一緒に参加したので、お互いの意識共有ができた点も良かったです。

